

優秀賞

魔法のチキン南蛮

帝塚山大学教育学部 3年 川村 好香

私にとって母の料理は魔法だ。どの料理も美味しく、どんな疲れでも吹き飛ばす力がある。休みの日に母と一緒に料理をしたり、家族みんなでテーブルを囲み、楽しく食べている時間が何よりも幸せだった。

しかし昨年、母は天国へと旅立った。それからは、帰宅するのが一番早い私が夜ご飯を作るようになった。母の味を思い出しながら料理をした。様々な料理を作ったが、どれも美味しく感じなかった。何が違うのか、どうしたらいいのか分からず、試行錯誤したが、どうしても母のあたたかい味にはならなかった。いつも母に聞きながら作っていたため、どれも正確なレシピが分からなかった。次第に食欲も料理を作る意欲もなくなってしまった。

ある時、大学のレポートを整理するために携帯のメモのアプリを久しぶりに開けた。そこに『チキン南蛮』と書かれたファイルがあった。なかには材料と分量、工程、時間などとても詳しく書かれていた。私が一人で作る時に母が教えてくれたチキン南蛮のレシピであった。メモから母の存在を感じ、久しぶりにチキン南蛮を作ってみたくなった。詳しく書かれたメモとキッチンに立つ母の姿を思い出しながら作った。母にお供えをして、家族みんなで食べるととても懐かしく、美味しく、あたたかい気持ちになった。

このチキン南蛮を食べると母が背中を押してくれる気がして、気持ちが落ち込んだ時や気合いを入れたい時にこのチキン南蛮を作るようになった。一つの料理が母とのたくさんの思い出を蘇らせてくれた。やはり、母の料理は魔法だった。

料理を通して、母から私へと繋がったバトン。私にも子どもができたなら、母の魔法の料理を繋いでいきたい。そして、食べながら母の自慢話でもしよう。